

# 第4回 「家族のきずなエッセイ」 作品集



発表・表彰：令和5年12月2日（土）砥部町中央公民館

主 催：愛媛砥部モラロジー事務所

後 援：砥部町・砥部町教育委員会・砥部町小中学校長会・  
モラロジー道徳教育財団

協 力 校：麻生小学校・宮内小学校・砥部小学校・広田小学校  
砥部中学校

## ごあいさつ

この度、愛媛砥部モラロジー事務所主催の第4回「家族のきずな」エッセイ募集を町内の小中学校児童、生徒の皆様を対象にお願い致しましたところ 433 編もの多くの作品を寄せてくださいました。この冊子には入賞 5 編、入選 25 編、合わせて 30 編の作品を掲載しております。

ご応募いただいたエッセイは「家族のきずな」の大切さを考えさせられる作品ばかりでした。

校長先生をはじめ担当の先生方、保護者の皆様のご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

また、このエッセイ募集の活動にご後援いただきました砥部町、砥部町教育委員会、砥部町小中学校長会はじめ、多くの協賛いただきました企業、個人の皆様にご心より御礼申し上げます。

また、第1回より選考委員長として企画、運営にご協力いただいております小田直行先生はじめ選考委員の皆様には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

最後になりましたが、この取り組みをとおして、家庭、学校、地域が一体となって未来ある子供たちの心を育てる契機になることを願っております。応募いただいた児童、生徒の皆様にご感謝申し上げごあいさつといたします。

愛媛砥部モラロジー事務所  
代表世話人 和田耕司

## 講 評

「家族のきずなエッセイ」入賞・入選おめでとうございます。  
愛媛砥部モラロジー事務所主催の第4回「家族のきずなエッセイ」募集には、町内の小中学生から昨年を上回る433編の作品が寄せられました。本当にありがとうございます。それぞれの作品には、体験した者にしか書くことのできない家族愛や家族への感謝の気持ちが溢れ出ており、エッセイ集に総ての作品を収録したかったのですが、諸事情で選考させていただきましました。第一次選考で88編に絞り、第二次選考で作品集に掲載する30編を選びました。甲乙つけがたい作品が多く、その中から町長賞、教育長賞、モラロジー道徳教育財団賞、愛媛県モラロジー協議会賞を選ぶのは難航いたしました。

5月からコロナウイルス感染症が5類となり、徐々に人との関りが回復してきました。しかし、コロナ禍の影響を子供たちは強く受けたのか、安心して過ごせる居場所としての家族だけでなく祖父母を中心に家族への愛や感謝の気持ち、いのちのつながりを素直に表現した作品が多くありました。また、塞ぎ込みがちなときにときめく弟や妹の誕生、ともすれば表立てにしにくい病気や死別の内容の作品、自分の言動を振り返り力強く生きていこうとがんばっている姿を書いた力強い作品もありました。さらに、親が見方や考え方を一方的に押し付けるのではなく、子供に寄り添い、ともに成長していく家族の姿勢を書いた作品には共感いたしました。このようなあたたかい家庭で育った子供たちは、困難な状況に出会っても助け合って生き抜く力を身につけ成長していくことでしょう。少子高齢化、幼児虐待やいじめなど子供たちを取り巻く環境はいっそう複雑化してきています。私たち大人は、子供たちのための環境づくりに取り組まなければならないと強く感じました。

「家族のきずなエッセイ」にお寄せいただいた子供たちとご家族の皆様、募集にご協力いただいた先生方、審査にご尽力を賜りました選考委員の皆様にも、厚くお礼を申し上げます。このエッセイをきっかけにして、それぞれのご家庭が「家族のきずな」を再認識し、思いやりの輪がいっそう広がっていくことを願っております。最後に、本エッセイ募集の企画・運営等にご尽力いただいた関係者の方々に心からお礼を申し上げ、講評といたします。

選考委員長  
元伊予市立北山崎小学校長  
小 田 直 行

令和5年度  
第4回「家族のきずなエッセイ」入賞作品一覧

\* 砥部町長賞

大谷 斗真 砥部小学校 4年 . . . . . 5  
ぼくのお父さん

\* 砥部町教育長賞

山地 凜 広田小学校 6年 . . . . . 6  
家族とはなれて

\* モラロジー道徳教育財団賞

堀内 七海 宮内小学校 4年 . . . . . 7  
島じいちゃんのみかん

\* 愛媛県モラロジー協議会賞

伊藤 瑞季 麻生小学校 2年 . . . . . 8  
弟が生まれた

得居 心音 砥部中学校 1年 . . . . . 9  
忘れられない家族の言葉

## 入選作品一覧

### < 入 選 >

浜田	ゆず	麻生小学校	2年	大すきなおじいちゃん・・・10
石原	矢尋	砥部小学校	2年	ひいじいちゃんのこと・・・11
松下	実咲	砥部小学校	3年	あまえんぼうの妹とあまえんぼうのわたし・・・12
岡本	晟也	宮内小学校	4年	命をつなぐ・・・・・・・・・・13
小田	楓	宮内小学校	4年	私の宝物・・・・・・・・・・14
井谷	陽葵	宮内小学校	4年	まっているよ・・・・・・・・・・15
向井	やよい	広田小学校	4年	家族そして友達とのきずな・・・16
大向	風歌	宮内小学校	5年	うけつがれた家族の笑顔・・・17
上成	皇誠	砥部小学校	5年	ばあちゃんありがとう・・・18
竹島	凜	砥部小学校	5年	もちつき・・・・・・・・・・19
尾上	鈴翔	広田小学校	5年	本当の気持ち・・・・・・・・・・20
山田	陽向	宮内小学校	6年	家族がどれだけ大切か分かった出来事・・・21
黒川	楓	宮内小学校	6年	私のたからもの・・・・・・・・・・22
大谷	莉々華	砥部小学校	6年	父ちゃんハンバーグ・・・・・・・・23
森口	怜司	砥部小学校	6年	コロナ時の優しいお母さん・・・24
上田	龍征	砥部小学校	6年	最高の野菜・・・・・・・・・・25
平岡	穂実	砥部中学校	1年	弟の誕生と成長・・・・・・・・・・26
井門	美結奈	砥部中学校	1年	生まれてきてよかったと感じたとき・・・27
酒井	碧唯	砥部中学校	1年	僕の家族の新たな挑戦・・・28
白石	愛美	砥部中学校	1年	「家族のきずな」ってなんだろう？・・・29
徳永	柚咲	砥部中学校	1年	おかあさんの気持ちと私の気持ち・・・30
井上	羽詩	砥部中学校	1年	一つの大切な言葉・・・・・・・・31
弘岡	朔羽	砥部中学校	1年	家族が僕の野球を支えてくれている・・・32
上成	海凧	砥部中学校	1年	父の言葉・・・・・・・・・・33
仲濱	蒼良	砥部中学校	1年	お母さんとの思い出・・・・・・・・34

# 砥部町長賞

## ぼくのお父さん

砥部小学校 4年 おおたに 大谷 とうま 斗真 さん

ぼくの家族の思い出は、大分県に行った旅行です。お父さんが病気だとしてから家族5人で学校を休んで旅行に行きました。

お父さんは、その時にはもう歩けませんでした。ぼくがお父さんのお店に食べに行くと、お父さんはいつも元気で、みんなに食事を運んでいて、お店では店長でした。家ではいつものんびりしていました。そんなお父さんが歩けなくなったけど、家族で大分に旅行に行った時には、みんなでお父さんの車椅子をおしました。とても大変だったけど、お父さんはよろこんでくれました。お母さんもお姉ちゃん達も楽しそうでした。

お父さんが死んでぼくはとても悲しいです。休みの日には、いつもぼくとキャッチボールをして遊んでくれました。けどお父さんがいなくなると、だれもしてくれません。

でもぼくが泣きそうになるとお姉ちゃん達が笑わせてくれます。

ぼくはがんばります。

# 砥部教育長賞

## 家族とはなれて

やまじ りん  
広田小学校 6年 山地 凜 さん

わたしは山村留学センターに通っていて、4月から家族とはなれて暮らすようになりました。新しい環境になじめず、不安になって泣いてしまうこともありました。いつもそばでなぐさめてくれていた家族ともはなれてしまい「私はもう1人なのかもしれない」と思うほどでした。

時は流れて4月の終わりごろになって家族と会える日になりました。このころになると、私はセンターの友達と楽しく暮らしていて、泣くことも少なくなっていました。話せる時間になって、お母さんお父さんが近づいてきて私はなつかしくなり涙があふれました。するとお母さんが「凜、会いたかったよ」と言ってだきしめてくれました。私は自分だけがさみしいんだと、かんちがいしていました。帰りまぎわに家族が言ってくれました。「凜、さみしいのは同じなんだから、泣かないでね」。その言葉に私は元気をもらいました。

今は夏休み、家族と一緒にいられる時間を大切にしようと思いました。

# モロロジー道徳教育財団賞

## 島じいちゃんのみかん

宮内小学校 4年 ほりうち 堀内 ななみ 七海 さん

わたしのじいちゃんは、釣島の畑でみかんを作っています。品種は、紅マドンナ、セトカ、ナツミです。しゅうかく時期は12月から5月までになります。島じいちゃんは、75才なのに、20キロほどのみかん箱を持ち上げます。すごく力が強いんです。でも最近は、こしが45度くらい曲がってしまって「もうやめる」とつぶやきながらがんばっています。島じいちゃんが作ったみかんは、とてもあまくて、ジュースみたいで、わたしは大好きです。「なぜおいしいの」と聞いたら、「島で作るから」と、すごくうれしそうに答えてくれます。まだやめそうにないなと思います。わたしはじいちゃんににってるのか力が強く、みかんが入った10キロのかごを運ぶことができます。今年も手伝って、バイト代のみかんをいっぱい食べたいです。中学生になったら20キロのみかん箱も、持ち上げられるようになるので、それまでがんばってほしいなと思います。

# 愛媛県モラロジー協議会賞

## 弟が生まれた

麻生小学校 2年 いとう みずき  
伊藤 瑞季 さん

6月にわたしの弟がうまれました。名前は「そうた」になりました。お母さんのおなかですこしずつ大きくなったり、おなかをさわるとおなかの中の赤ちゃんがうごいたりして、とてもびっくりしました。赤ちゃんに会えることがとてもたのしみになりました。

学校からかえると、おばあちゃんに「赤ちゃん生まれたよ。男の子だって」とおしえてもらいました。わたしはとびはねるくらいうれしかったです。早く会いたいと思いました。

つぎの日、お父さんと妹と3人でびょういんに行き、赤ちゃんにやっと会えました。とても小さくてかわいかったです。毎日会いに行きました。いえに赤ちゃんがきた時は、うれしかったです。赤ちゃんは1日中ねてばかりだけど、たくさんやさしくさわったり、声をかけたりしています。たまににこっとわらうととてもかわいいです。大きくなって早くいっしょにあそべるようになる日がとてもたのしみです。

# 愛媛県モラロジー協議会賞

## 忘れられない家族の言葉

砥部中学校 1年 とくい 得居 ここね 心音 さん

「家族はいつでも心音のこと思ってるし味方だから」そう言われた時、私は涙が出そうでした。この言葉は昔に私が1人になってしまった時、家族が私に言ってくれた言葉です。私は小学生のころ友達とけんかをし、まわりの子に責められてしまい、家族に「学校に行きたくない」と相談した時期がありました。相談をした時、家族は真剣に聞いてくれて、私に「家族はいつでも味方だから」と何度も安心できる言葉をなげかけてくれ、気にかけてくれました。その後、友達とは仲直りができて家族に伝えると、自分のことのように喜んでくれ、私もうれしくなりました。その時、私は友達とけんかをして1人になったとしても、家には私が帰る居場所があるし、力になってくれる人がいるんだと安心しました。あの時、真剣に向きあってくれた家族に心から感謝をし、安心する言葉をかけて居場所を作ってくれてありがとうございました。

# 入選作品

## 大すきなおじいちゃん

麻生小学校 2年 はまだ 浜田 ゆず さん

わたしには、73才になる元気なおじいちゃんがあります。おじいちゃんは、タクシーのうんてん手のおしごとをまい日元気にはしています。おじいちゃんはしゅみがたくさんあって、いつもたのしそうです。ラッキーという大きなりょう犬をつれて、山にきじをうちに行ったり、さんさいをとりに行ったり、たけのこをほったり、いつも大いそがしです。

その中でもわたしが1ばんうれしいのは、わたしが、「ぶどうすき」と言うと、じいじのにわがぶどうばたけになっていたり、「ブルーベリーがすき」と言うと、ブルーベリーを作ってとらせてくれたりします。ほかに、いちご、トマト、スイカ、ピーマン、オクラ、ジャガイモ、にんじん、なすび、びわ、いよかんなど、数えきれないぐらいのやさいやくだものを作っては食べさせてくれます。

わたしは、おじいちゃんがあいじょうたっぷりそだてた、りっぱなやさいとくだもので大きくなったよ。じいじ、いつもありがとう。

# 入選作品

## ひいじいちゃんのこと

砥部小学校 2年 いしはら やひろ  
石原 矢尋 さん

ひいじいちゃんがしんで、ひいじいちゃんのおそうしきが5月にありました。ひいじいちゃんのおそうしきのとき、ぼくはますますかなしくなってきました。かぞくみんなでおりがみでつるをつくって、ひいじいちゃんのひつぎにたくさんいれました。おこつをひろって箱にいれました。もうひいじいちゃんと話せないのがとてもかなしいです。

ひいじいちゃんのおもい出は、いっしょにトラクターにのせてくれたり、虫とりもいっしょにいつてくれたり、おたまじゃくしすくいもいっしょにしてくれたり、じてんしゃのれんしゅうもいっしょにしてくれたりしました。ぼくにとってひいじいちゃんはやさしいひとでした。いなくなってさみしいです。

ひいじいちゃんがいなくなって、ひいばあちゃんは1人ですんでいます。ひいばあちゃんがさみしくないようにおとまりにいたり、電話したり手がみをたくさんかきたいと思います。

## 入選作品

### あまえんぼうの妹とあまえんぼうのわたし

砥部小学校 3年 <sup>まつした</sup> 松下 <sup>みさき</sup> 実咲 さん

わたしは4姉妹の次女で1番下に2さいの妹がいます。妹はとてもあまえんぼうです。でも、わたしも少しだけあまえんぼうです。夜ねる時、私はだれよりもさきにお母さんとねる約束をします。でも、ねるときになると妹がお母さんをよこどりします。私は本当はとてもいやな気持ちになるけど、まだ小さいからいいやと思ってがまんします。でも毎日よこどりされるからけんかにもなります。本当は、私も妹みたいにお母さんにあまえたいからです。ときどき私はないているふりをします。すると、お母さんも妹もしんぱいそうによってきてくれます。私はすぐに顔がにやにやすするからなくてなかったことはばれるけど、みんなが私の方によってきて少しうれしくなります。そんな妹がたまに私にあまえてきます。私のおなかの上に乗って「おばけがこわいよ」と言ってきます。私もこわくなるけど、そんなときはいっぱいだきしめてあげます。だって私はお姉ちゃんだからです。

# 入選作品

## 命をつなぐ

宮内小学校 4年 おかもと 岡本 せいや 晟也 さん

ぼくは、お母さんからひいおじいちゃんの戦争体験の話聞いた。

ひいおじいちゃんは、ぼくのおじいちゃんが生まれる前に中国に戦争に行った。満州鉄道の列車に乗った時に、兵たいの友達に「見はりを交代してほしい」と頼まれて交代したそう。

その夜、てきに列車をこうげきされ、交代した友達が乗っていた車両がぼくはされ、兵たいの友達はなくなってしまったそう。もし交代していなかったらひいおじいちゃんがなくなっていた。ぼくのおじいちゃんもお母さんもぼくも生まれていなかった。ぼくはこわくなった。お母さんから「命がつながっているのはきせきなんだよ」と言われた。ぼくは命を大事にしようと思った。

ぼくが生まれた時は、ひいおじいちゃんはなくなっていたけれど、お母さんが子どもの時にひいおじいちゃんから聞いてぼくに話してくれた。

ぼくも次に命をつないでいきたい。

# 入選作品

## 私の宝物

宮内小学校 4年 おだ 小田 かえで 楓 さん

私には、今4か月の妹がいます。母は毎日妹の育児日記を書いています。日記には、うんちやおしっこ、授乳の時間や回数、その日のコメントが書かれています。毎日書いてすごいと思いつながらそれを読んでいると、母が、

「楓やお姉ちゃんの時も書いたよ」

と言って、私と姉の育児日記も持ってきてくれました。

見てみると、夜中に何度も授乳していて、母はねむれず大変だったと想像できました。声を出して笑った、寝返りしたなどの初めてのこと、かぜで心配な日のこと、私の好きな物きらいな物などが、1才になるまで毎日書かれていました。私の成長を細かく、ずっと見守ってくれた母のやさしい愛が伝わり、とても嬉しく、この日記が宝物のように思えました。

今私は、時々妹の育児日記にコメントを書いています。将来妹が見た時に、妹のことが大好きだよという私の気持ちが伝わって、喜んでくれたらいいな。

# 入選作品

## まっているよ

宮内小学校 4年 いたに ひまり  
井谷 陽葵 さん

私には、お姉ちゃんが1人、妹が2人います。そして来年の1月には、弟か妹が産まれる予定です。お母さんがにんぷけんしんに行っている時に、「元気かな？大きくなっているかな？」と、ドキドキしています。お母さんが帰ってきたら、走ってむかえに行っけつかを聞きます。エコーを見るのが1番の楽しみです。先日、ショッピングセンターでにんぷ体験や、赤ちゃんのそれぞれの時期の大きさや重さの人形をだっこしました。9か月では、スイカとほとんど同じ重さになります。お母さんは、10か月間おなかの中で赤ちゃんを育てるのが大変ということが分かったので、私にできることをしようと思いました。家のお手伝いをしたり、お母さんの足のマッサージをすると、とてもよろこんでくれます。お母さんがよろこんでくれると、私も、とてもうれしいです。弟か妹が元気に産まれるように、お母さんのそばで赤ちゃんを見守っていきたいです。

## 入選作品

### 家族そして友達とのきずな

広田小学校 4年 <sup>むかい</sup>向井 やよい さん

私は、とべ町高市、高市地区にある、山村りゅう学センターに1年間だけ、行っています。家族とはなれて生活して、バスで学校に通っています。最初はさみしかったけど、友達やセンターのしょく員さんがやさしくしてくれるのでだんだんなれていきました。

5月に、初めてのイベントで家族と会える「こどもの日祭り」がありました。ひさしぶりにあえてうれしかったです。家族と一緒にいろいろなきょうぎをしたり、おいしいご飯が食べれて楽しかったです。家族が帰ってしまう時は、りゅう学センターに入ったときよりもさみしく思いました。

いつも一緒に生活するのがあたり前の家族とはなれて悲しいけれど、友達がなぐさめてくれたり味方してくれます。家族がしてくれていたように、たまに注意もしてくれます。ピアノと一緒にひいたりもしてくれうれしいです。りゅう学センターの仲間は、私にとって家族のようにとても大切な宝物です。

# 入選作品

## うけつがれた家族の笑顔

宮内小学校 5年 おおむかい 大向 ふうか 風歌 さん

私の家には、先祖代々守ってきたおはかがあります。

いままでは、おばあちゃんやおじいちゃんが、このおはかを  
守ってきました。でも、もちろんのこと、おばあちゃんやおじ  
いちゃんも歳をかさねるにつれて、たいへんになったと聞きま  
した。それを聞いたお母さんとお父さんが、

「そろそろ、交代するか」

と言いました。

おばあちゃんとおじいちゃんを車にのせてどうやってそう  
じをするのか、どこにゴミをもっていくのかなどをおそわって  
いました。おばあちゃんもおじいちゃんも笑顔になっていまし  
た。

代々うけつがれてきたことを、お母さんとお父さんがうけつ  
いで、おばあちゃんもおじいちゃんもよろこんでいたので、私  
も大きくなってお母さんとお父さんが大変になったら、交代し  
てお母さんとお父さんを笑顔にしたいです。

# 入選作品

## ばあちゃんありがとう

砥部小学校 5年 うえなり 上成 こうせい 皇誠 さん

ばあちゃんが病気になった。病院の先生でも治せない病気だった。僕と母さんではあちゃん家ではあちゃんのかん病をすることになった。

「ピンポン」

ブザーが鳴った。ばあちゃんだ。すぐにかける。

「氷1個ほしい」

と人差し指を立てた。僕はおいしい水で作った氷をばあちゃんの口へ1つ入れてあげた。右のほっぺ左のほっぺへと上手にどうぞさせ、おいしそうに食べてくれる。僕は氷係になった。父さんの係は果物を小さく切る係。母さんの係は体をふいたり、ご飯を食べさせたりしていた。ばあちゃんはそのたびに僕らに「ありがとう」と言ってくれた。

僕はばあちゃんの手をずっとにぎっていた。いっぱい話しかけてあげた。

ばあちゃんはずっと笑っていてきれいだった。ありがとうばあちゃん。

# 入選作品

## もちつき

砥部小学校 5年 たけしま りん 竹島 凜 さん

毎年12月30日にひいじいちゃんの家で親せきが集まっておもちつきをします。ひいじいちゃんは、95才です。畑で野菜を作っていて、いつもおすそ分けをくれます。少し耳が聞こえにくく、声が大きいのでたまにびっくりすることもあるけど、元気でやさしいひいじいちゃんが大好きです。

おもちつきには、県外に住んでいるいとこがたくさんくるのですごくワクワクします。

1年に2、3回くらいしか会えないので、みんな最初は、てれて話さないけど、いっしょにおもちをついたり、まるめたりしていると話したり遊んだりするようになります。

杵と臼でつくるおもちは、とてもやわらかく、みんな笑顔でいっしょに食べれるから、大好きです。また今年もみんな笑顔でいっしょにつきたてのおもちが食べれるのを楽しみにしています。

ひいじいちゃん、ずっとずっと元気でいてください。

# 入選作品

## 本当の気持ち

広田小学校 5年 おのうえ 尾上 りんか 鈴翔 さん

私は、今年留学をしています。なので、親に会うことは、めったにありません。下の学年の子たちが、よくお母さんやお父さんが帰ったあとになさだします。自分は、なぐさめる方の子です。人をなぐさめているけれど、人をなぐさめている時、自分も親のことを思い出してさみしくなります。でも、なぐさめているのは、高学年。なぐさめてもらっているのは、低学年。高学年になっても、1年生の時も、親とはなれるのはさみしいです。いつも家で、お手伝いして「ありがとう」「たすかるよ」と言う親の声がないのです。家にいたら言ってもらえる言葉。家にいなくて言ってもらえない言葉。なにをしても兄弟や親の声は、きこえない。よくケンカする弟や母でも、いざはなれるととてもさみしくなるし、かなしくなりました。

これからは、もっともっと家族のきずなを大切にします。私は、あらためて気づきました。きずなって大切なんだなと思いました。

## 入選作品

### 家族がどれだけ大切か分かった出来事

宮内小学校 6年 やまだ ひなた  
山田 陽向 さん

私が家族の大切さに気づいたのは、わたしと妹が先日、コロナウイルスにかかった時です。妹と私が発熱した時、母は1人だったのに、私達にすぐ氷枕を用意してくれました。他にも、私達が食べやすいおぞうすいなどのご飯や、ゼリーやヨーグルト、フルーツなども用意してくれました。おかげで私も妹もすぐに熱は下がり、元気になりました。ですがその2日後、私達のかんびょうを1人でしてくれていた母もコロナウイルスになってしまいました。なので、次は私がちゃんとしなくてほと、1人で買い物や料理、せんとくもやってみました。最初は不安でいっぱいだったけど、私達がしてもらったように、氷枕やゼリー、食べやすい物も用意して、いっしょうけんめいかんびょうしました。今では熱も下がり、すっかり元気になりました。この出来事から、家族は助け合って、どんな時でも家族を1番に考えなくてはいけないな、と改めて家族の大切さに気づかされた、心に残った出来事です。

# 入選作品

## 私のたからもの

宮内小学校 6年 くろかわ かえで 黒川 楓 さん

私のたからものは家族です。私の家は5人と2匹の犬の7人家族です。私は特にみんなでご飯を食べる時間が大好きです。ご飯の時はいろんなことを話しています。学校のことや友達のこと、習い事のことなどを毎日話しています。話しながら食べていると、その日のご飯が何倍にもおいしくなります。また夏休み中はお父さんとお母さんが仕事でいないときは、お昼ご飯や夜ご飯を作っていました。もともと小さいときから料理をすることが大好きだったのでとても楽しく作ることができました。お昼ご飯は毎日かんたんなものですが、夜はカレーやオムライスなどを作るだけで時間がいっぱいです。家族はみんな「おいしい」と言ってくれてとてもうれしいです。私の習い事がある日や仕事がない日はお母さんがご飯を作ってくれます。お母さんの作ったご飯はとてもおいしくて大好きです。私が作ったご飯の時よりご飯の時間が盛り上がります。やっぱりみんなで食べるご飯が1番！！

## 入選作品

### 父ちゃんのハンバーグ

砥部小学校 6年 おおたに 大谷 りりか 莉々華 さん

私は香川県で産まれたそうです。5歳までは香川県に住んでいたそうです。

2年前にレオマワールドに家族5人で行きました。初めての家族旅行でとても楽しかったです。卓球をしたり、みんなで絶叫コースターに乗りました。本当に楽しくてあつという時間でした。また行きたいと思っていたけど、旅行から帰って来てからお父さんが病気と知りました。お父さんはしばらくお仕事を休んでいて、元気な時はご飯を作ってくれました。作ってくれるご飯の中で特にハンバーグがおいしくて家族全員が大好きでした。

少し前に学校を休んで大分に旅行に行きました。その時にはもうお父さんは歩けませんでした。交代で車椅子を押して、観光したり、遊園地に行ったりしました。その時に美味しいものも沢山食べたけど、お父さんのハンバーグが1番美味しいです。家族とお父さんのハンバーグの味を真似しようと挑戦しています。いつかお父さんのハンバーグを作りたいです。

## 入選作品

### コロナ時の優しいお母さん

砥部小学校 6年 もりぐち れいじ  
森口 怜司 さん

ぼくは、今年の夏休みに、新がたコロナウイルスに感せんしました。初日は39度も出ました。それからの毎日、かくり生活が始まりました。毎日ずっと、お母さんは階段の上り下りをくり返して、朝ご飯、昼ご飯、夜ご飯や薬の用意、布団を用意したりなど、ぼくがさわった所は全て、てっ底的除きんなど、様々なことをしてくれました。ぼくは、除きんはメンタル的にきつかったけど、そんなお母さんに感謝しています。お母さんのかくりやおそらく除きんのおかげで7人家族のぼく以外だれも新がたコロナウイルスにかかりませんでした。旅行に行く前にぼくの新がたコロナウイルスも治り、楽しく旅行に行けました。なかなかはずかしくて素直にお母さんの目を見て、「ありがとう」とは言えないけど、字に書いてなら、はっきり伝えられる。

『お母さんありがとう。これからもよろしく』

# 入選作品

## 最高の野菜

砥部小学校 6年 うえだ 上田 りゅうせい 龍征 さん

ぼくの家では、庭の畑で家族全員で野菜を育てています。お父さんとお母さんと弟とぼく。みんなで土を耕し、種を植え、水をやり、草引きをして、やっと収かくできた野菜は、スーパーで買ってきた野菜より新鮮でみずみずしくて美味しかったです。

自分達で作った野菜を食べると、これまでがんばって育ててよかったなと思うとともに、こんなにおいしい野菜が作れたのは、家族みんなが協力したおかげだと思いました。ぼくだけではこんなに美味しい野菜は作れていなかったと思います。

また、ご飯の時の会話が増えました。家族から「美味しいね、これうまっ！」等の声を聞くと、野菜作りの大変さが楽しさに変わった気がしました。

これからも、みんなで協力して色々な野菜作りにちょう戦したいです。



## 入選作品

### 生まれてきてよかったと感じたとき

いど みゆな  
砥部中学校 1年 井門 美結奈 さん

私が生まれてきてよかったなと思った言葉は、「生まれてきてくれて、ありがとう」と言ってくれたことです。お母さんは、私が生まれてこなかったら、「こんなに毎日は、楽しくないだろうな…」と言っていました。私が生まれてきたことの感謝について、お父さんやお母さんが話していると、生まれてきてよかったなと、改めて思います。私は、お父さんやお母さんに愛される家庭に生まれてくること自体が奇跡だと思っています。

私が8才のときにお母さんから聞いた話です。私は両親が結婚して13年目に生まれました。実は結婚してすぐに赤ちゃんができたけど、生まれてくることができなかったそうです。先ほど奇跡と言いましたが、その理由は、だれもが健康で生まれてくること自体が奇跡だということです。

これからは、生んでくれたお母さん、お父さんを生んでくれたおばあちゃん達に感謝しながら生きていきたいです。

# 入選作品

## 僕の家族の新たな挑戦

砥部中学校 1年 さかい 酒井 あおい 碧唯 さん

2年前のある日、僕と妹で両親に「キャンプをしてみたい」とお願いをしました。実は僕の家族はかなりのインドア派で、外出はあまりせず、するとしても買い物ぐらいで、キャンプのようなことはあまりしてこなかったのです。なので両親が乗り気になるか少し不安でしたが、幸いなことに家の近くにキャンプ場があり、「デイキャンプなら」と乗り気になってくれました。最初のキャンプは総合運動公園キャンプ場でした。初めてだったのでろくに道具もありませんでしたが、とても楽しい時間を過ごせました。また、最近では初めての泊りのキャンプに行ったりとすっかりキャンプにはまりました。

僕の家族は超インドア派だったのに、こんなにもキャンプにはまるとは思いませんでしたが、キャンプは家族の絆を深める良いきっかけになったと思います。これからもこういう家族のきずなが深まるような経験をしていき、さらに絆を深めていきたいです。

## 入選作品

### 「家族のきずな」ってなんだろう？

砥部中学校 1年 しらいし まなみ  
白石 愛実 さん

「家族のきずな」とは、なんだろう？私は「きずな」とは、つながるということだと考える。私は、父・母・兄・妹の5人家族だ。家族のつながりを感じた出来事があった。それは、家族の思い出のホームビデオを見ていた時の話だ。3人の兄弟が赤ちゃんだったころの映像を家族で見た。妹が、産まれたとき私は5歳だった。妹が産まれたことがうれしくて、兄と一緒に赤ちゃんだった妹の世話をよくしたり、絵本を読んであげたりしている様子が映っていた。私が産まれたときには、兄が私を抱っこしたり、可愛がったりしている映像が残っていた。兄が生まれたとき、私と妹はもちろんいないが、父と母が幸せそうに赤ちゃんだった兄の世話をする映像が残っていた。父と母が出会い、結婚して2人家族から5人に増えた。毎日一緒に過ごす家族は私の生活の中でかけがえのない存在である。このようにいつか私も家族をもち、命のバトンをつないでいきたいと思っている。

## 入選作品

### お母さんの気持ちと私の気持ち

とくなが ゆずき  
砥部中学校 1年 徳永 柚咲 さん

私は最近、部活動で腰を痛めてしまい、病院に行ったところ、「腰椎分離症」と言われ、「下手に動かしたりするとなおらないかもしれない。部活動も極力やめるよう」言われました。家に帰ったあと、お母さんは泣きながら「もう柚のバスケットをしようの姿が見れんと思うと泣けてくる」と私に向けて話し始めました。その時、私はどうすることもできずにただただ笑うしかありませんでした。お母さんは泣くほど私のことを思ってくれていたことに私は泣きそうになりました。その後日からお母さんは私に注意点を毎日のように言ってくれ、本当に私のことを大切に思ってくれているんだと感謝する反面、自分は迷惑しかかけていないなと思うばかりでした。ですが今の私にできることはケガを治すこと、それがお母さんへの恩返しだと思い、もう1度バスケットをする姿をお母さんに見せれるようがんばることを決意しました。お母さんが泣いて言ってくれた言葉を私はずっと忘れません。

# 入選作品

## 一つ大切な言葉

砥部中学校 1年 いのうえ うた 井上 羽詩 さん

「いつもありがとう」。私はこの言葉が大好きだけど、自分からすなおに言うことはなかなかできません。でも自分の家族は誕生日に手紙を書くことを心がけています。

お母さんの誕生日の当日を迎え、私はお母さんに手紙を書きました。この手紙には、ひごろの感謝をたくさん書きました。それで私はふと思いました。「ふだん言えないことを手紙に書こう」。そして私は「ありがとう」という言葉が浮かびました。

私はお母さんにいつも感謝しています。なにより産んでくれて、ここまで育ててくれたことが1番の感謝です。今日お母さんの誕生日でどうしても伝えたかったので私は手紙に書きました。そしたらお母さんも「いつもありがとう」そう言ってくれてとても心が温まりました。すなおに気持ちを伝えるってこんなにいいことなんだなと改めて実感しました。

## 入選作品

### 家族が僕の野球を支えてくれている

砥部中学校 1年      ひろおか   さく  
弘岡   朔羽   さん

「お母さん洗たくよろしく」。部活があるときいつも僕はそう言う。帰ったときに「おかえり」と弟は言ってくれる。そして勉強して寝る。起きたら僕の机にはいつも野球の服がおかれていた。部活がない日の休日、「練習しようぜ」と言ってくれる父。こういう時はいつもさそってくれる。僕のために練習してくれて僕はうれしかった。だから部活でもうまくいく日が増えていった。だけどできない日はとても悔しい。悲しい。それでも練習にさそってくれたり、母は洗たくをしてくれる。それなのに僕は練習するだけ。恩返しが全くできていない。してもらって当然になっていた。僕は総体ではレギュラーになれなかった。とても悔しかった。でも練習不足だと感じていた。だからこそ、新人戦ではレギュラーはとりたい。そのために、いつでも恩返しできるようにしたい。練習をあきらめたくない。そして家族に感謝したい。そしていつか言う。「みんな僕を支えてくれてありがとう」と。

# 入選作品

## 父の言葉

砥部中学校 1年 うえなり 上成 みなぎ 海風 さん

「やる気がないならするな!」と、お父さんに言われた。僕は、僕なりにがんばっているつもりだったのに、すごく悲しかった。

家に帰ったらお母さんにこう言われた。

「お父さんは、海風にがんばってほしいけん言いよんよ」。僕は、申し訳ない気持ちがこみあげてきた。お父さんは、僕にがんばってほしくて言っていたんだと、嫌味で言われてたんじゃないんだとわかった。だから僕は、すぐ謝りに行った。

「お父さんごめん、僕、たしかに少しだらだら練習してたかもしれない」。そう言うと、お父さんは笑顔で許してくれた。

そして部活の日、「父さんは、そう言ってくれたけど、自分は実力も無いし、失敗したり怒られたりするの不安だな」と思った。その日の部活を終えてお父さんに相談してみた。

「部活がうまくできなくて不安なんだけどどうすればいい?」。お父さんは、「心配せんでいいんよ。最初はみんな初心者なんやけん」。

その言葉で僕は、自信がついて今は自信を持って部活できている。

# 入選作品

## お母さんとの思い出

砥部中学校 1年 <sup>なかはま</sup>中濱 <sup>そら</sup>蒼良 さん

僕のお母さんは、僕が大人になるまでのことを考えて、約束事や僕の注意点などを書いてくれました。毎日それを見て行動しています。でも、わすれてしまいできないこともありました。

その時にお母さんの書いてくれた物を見えています。お母さんは、僕やおばあちゃんのことを考えてくれていました。僕は、大人になるまでの間にたくさんの苦労があると思いますが、それを乗り越えて勉強などをがんばります。お母さんの墓で手を合わせています。

お母さんは天国でおうえんしてくれていると思います。



# モラロジー教育では「3つの心」を育てます

## 思いやりの心

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみまします。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

## 感謝の心

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切にする尊厳性をはぐくみまします。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇氣を育てます。

## 自立の心

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみまします。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

愛媛砥部モラロジー事務所は、公益財団法人モラロジー道德教育財団より設置を承認された団体であり、よりよい社会づくりに貢献することを目的とした社会教育活動を行っています。

モラロジー道德教育財団は、倫理道德の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正15(1926)年の創立以来、「道德で人と社会を幸せに」という指針のもと社会における諸課題の道德的解決に資する研究・教育・出版・福祉事業を展開しています。また、日常の活動を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて取り組んでいます。

モラロジー(moralogy)は、「道德」を表すモラル(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学術名で、「道德科学」を意味します。日本はもとより世界の倫理道德の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした科学「総合人間学」です。

協賛企業・個人 (50音順・敬称略)

アキ工業(株)	稲田書店
(有)伊予ハウジング	(有)岩本建設
愛媛銀行砥部支店	愛媛新聞エリアサービス砥部
エヒメセラム(株)	(株)小泉組
(株)寿住宅	(有)佐々木産業
里窯(有)	(株)四国シキシマパン
末広工業(株)	砥部焼観光センター炎の里
中田窯	(株)ニシイチ
日本交通社(株)	原田農園
平岡米穀店	松下幸子
(有)美乃理屋	やまだ電気(有)
吉村設備	和田工作所
愛媛砥部モラロジー事務所 関係者	

第4回 「家族のきずなエッセイ」作品集

発行日 令和5年12月2日

発行 愛媛砥部モラロジー事務所

791-2141 伊予郡砥部町岩谷口203

TEL & FAX 089-962-2270

(本誌を無断で転載することを禁じます)